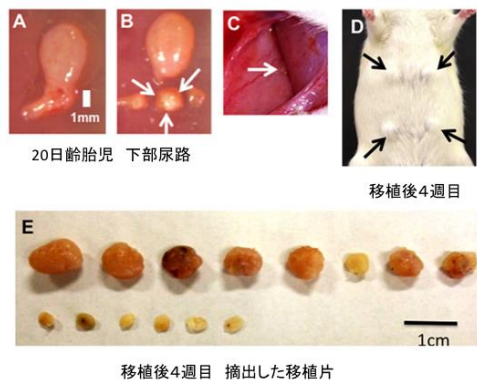


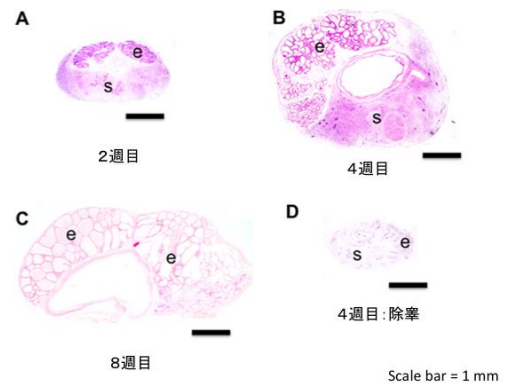
ラット雄性尿生殖洞を生体雄ラットへ皮下移植すると正常前立腺へ分化する

本研究では、雄性胎児より摘出した尿生殖洞（前立腺原基）を成体雄の皮下へ移植し、その機能形態的变化を追跡・解析した。これまでの前立腺の発生・再生の研究において汎用されている、尿生殖洞を腎被膜下へ移植する実験動物モデルにおいては①手術手技の煩雑さ、②レシピエント動物への侵襲、③移植片の状態確認のために屠殺が必要である等の不利な点が指摘されている。今回、移植操作が簡便であり、レシピエント動物が生きたまま移植組織片を採取できることから移植組織塊全体の経時的観察を可能とする尿生殖洞皮下移植動物モデルを確立した。移植片は皮下で生着・成長し、正常発生に近い組織形態変化をたどった。経時的観察が可能である本実験モデルの特徴により、腺管構造が多い領域と間質組織が多い領域がまたらに出現すること、そして、時間経過とともに腺管構造の多い部分が占める割合が増加することが明瞭に示された。さらに、移植早期の組織片の一部に、一時的に前立腺肥大症に類似した構造が形成されることが観察された。これらの結果は前立腺肥大症発生機序の未解決領域の解明に有用であると考えられる。

実験経過



組織像(HE染色) 弱拡大



記載：上村慶一郎

参考論文：

Uemura K, Ohta K, Kanazawa T, et al : Subcutaneous transplantation promotes organ formation of the fetal rat urogenital sinus. Acta Histochem.117(6): 512-20, 2015.